

生活のさまざまな場面で見られる  
**子どもの「学び」**



▲「迷路だ、迷路だ！」登園直後から遊びに熱中する子どもたち(松園保育園)



▲リズムに合わせて元気に音読する1年生(湯本小学校)

# 幼児期の「学び」を大切に

市では「共に育みましょう！花巻市の子どもたちを」をスローガンに就学前教育を推進しています。

就学前の子どもは外で遊んだり、友達と触れ合ったりすることで、心と知恵を育てていきます。子どもたちの成長を、保育園・幼稚園・認定こども園、学校、そして家庭や地域などの大人が支えることが、今必要な就学前教育です。

◇就学前教育の取り組み

就学前教育では、遊びを通して人格形成の基礎となる心情や意欲、態度などを育てます。一方、義務教育では、教科学習を通して知識や技能を習得させ、それらを活用して思考力や判断力、表現力などを育みます。園や小学校では、就学前教育で培った力を生かし小学校で自己発揮できるよう、各小学校区で計画を立て、連携・交流に取り組んでいます。例えば、先生同士では、保育の様子や小学校の授業の見学を通して年長児から一年生にかけての子



(写真上・左) 6月8日に開催した保幼小連携研修会の様子

もの発達について共通理解を深めています。また、小学校の体育館やプールで園児と小学生が遊んだり、小学校の授業に園児を呼んだりするなどの交流も行っています。



写真：西公園保育園

「貸して」って言ったのに貸してくれない！」「順番に使えばいいんじゃない？」

社会性・道徳性・葛藤

「こっちにもっと砂がほしいな」「スコップでたたくと崩れないんじゃない？ほくはこっちをたたくから、きみはそっちをたたいてくれない？」

コミュニケーション力、言語での表現力、自己肯定感、連帯感

「砂が黒っぽいと砂山を高く作れるね。水をかけるとどうなるんだろう？」

形状変化に合わせた関わり  
の工夫、探究心

「砂山高くなったね。クラスみんなでやったね。何人？」

数の量的感覚、達成感

「スコップだとたくさんすくえるけど、砂って重いね」

身体の運動機能、素材の特質

学びをつなぐ  
システムづくり

小学校に入学し、学校生活にスムーズに慣れるために必要なことは、就学前に机や椅子を使って文字や数字の勉強をさせることではなく、子どもの発達に合わせた関わりを持つことです。市では、園から小学校への接続が円滑に行われるための基礎となる、幼児期に身に付けておきたい力を整理し、年長児から一年生当初までの指導計画を作成しました。年長後期の計画が「花巻市アプローチカリキュラム」、一年生当初の計画が「花巻市スタートカリキュラム」です。

●花巻市アプローチカリキュラム  
育ちの過程に応じた学びの狙いや環境づくりについて示した計画

●花巻市スタートカリキュラム  
幼児期の教育から小学校教育への移行が円滑に行われるよう考慮した計画

保育士や教職員は、研修会を通

子どもたちの「育ち」と「学び」をつなぐ

幼児期は、自然や身近な人と関わりながら遊びに熱中することで、人間として大事なことを学んでいます。

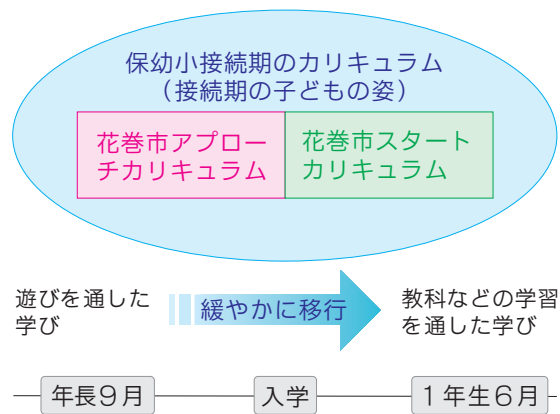
砂山を作っている子どもたち。その内面では「達成感」「忍耐強さ」「やり抜く力」などが育っています。遊びを通してさまざまな体験と、小学校などで学ぶ知識や技能が結び付いたとき、「生きる力」が生まれます。

例えば、保育園・幼稚園・認定こども園(以下「園」)では、登園してきた子どもたちがすぐに遊ぶことができるよう、砂場に軽く水をまいています。そうしておくことで砂が固まりやすいので、子どもたちは砂団子を作ったり、砂山を作ったりします。水をまく子どもも出てきて、そこから泥遊びが始まります。

このように、子どもたちは今ある環境の中から想像を膨らませ、遊びを展開していきます。

家庭でも、子どもと一緒に遊びを工夫し、子どもの学びの世界を共有してみましょう。

して、これらのカリキュラムと幼児期から小学校低学年の子どもの「学び」について、共通理解に努めています。



\*「花巻市アプローチカリキュラム」「花巻市スタートカリキュラム」は市ホームページに掲載しています